先端技術研究会／新潟産業人クラブ 第28回定時総会と講演会

先端技術研究会／新潟産業人クラブは９月14日、新潟市中央区の新潟グランドホテルで、第28回定時総会を開いた。役員改選では、新たな会長に、ヤチダの谷地田茂明社長が就任。また、副会長には双峰通信工業の樋口正仁社長、イオカ電子の井岡秋夫社長の二人がそれぞれ就任した。総会では2010年度の事業報告を行い、11年度の事業計画案も満場一致で了承した。また、同日、自衛隊新潟地方協力本部長の吉田賢一郎１等陸佐による記念特別講演会と、懇親パーティーも開いた。パーティーには来賓として新潟県の森邦雄副知事らを招き、盛大なものとなった。

記念特別講演会

東日本大震災を見て来た男の目

自衛隊新潟地方協力本部長　吉田　賢一郎1等陸佐

実弾の無い有事

東日本大震災は、地震、津波、原子力という複合災害であり、未曾有の災害に対して自衛隊は陸海空の統合で10万人という態勢で臨んだ。また、初めて、予備自衛官、即応予備自衛官の方々にも災害招集がかかり、活躍してもらった。我々にとっても「実弾の無い有事」と呼ぶべき事態であったと思っている。その国難に当たり、日本を守れるのは自衛隊だけだという高い責任感で今回の復興支援に取り組んだ。

「ありがとう」の言葉が支えに

特に我々は現地での活動を、日々しっかりとデータとして保持していた。小さな部隊から上級部隊に対して「今日は何をやった」ということを報告する。今日は何人に水を配ったとか食事を配ったとか、あるいは遺体／行方不明者の捜索で何人見つけたなど、全部細かく報告する。報告を受けた部隊はまとめて上級部隊へ。そして最後には統合任務部隊司令部まで行って全部の活動が集計される。これを毎日やっていた。これによって何が分かるか。当然のことながら時間がたてば右肩下がりに支援の数は減っていく。ただし、大事なことはどこにその支援が集中しているのか、何が足りていて、何が足りないのか、本当にこれでいいのかということである。毎日、週間、月間の単位でその変化を分析していた。それによって支援の振り分けをするわけである。例えば、ある地域は日々行方不明者の捜索をしてもほとんど見つからない。ところが、毎日見つかるところがある。それならば、大事なところに投入したらどうだという部隊の運用の話になり、その投入の仕方も変わってくる。

データ保持、分析には、もうひとつ狙いがあった。当然のことながら我々は撤収を考えていた。撤収をいつにするのかというのは大事なことだ。自治体が独力で復興する体制に移行する時期を見計らって、その段階で手渡す。自衛隊が活動すると当然、民生を圧迫する。自衛隊はタダで全部やってしまうから。ただし、自衛隊が勝手に「じゃあ、終わったので帰ります」ということではない。当然の事ながら自治体の長に状況を説明しながら、意向を聞く。「自衛隊がいると被災した方々が安心する」などのニーズがあれば留まる。データを活用して、ご理解いただきながら活動していたということが実際である。

次に、私の拙い体験談である。震災当時、私は第４地対艦ミサイル連隊長兼八戸駐屯地の司令をやっていて、部隊は当初岩手県釜石市に行く予定だった。ところが、気象庁が出した津波警報は北海道から沖縄まで真っ赤だった。だから急ぎ変更して、我々の部隊は青森県で唯一被害が大きかった地元の八戸の現場に向かった。幸いなことに八戸は津波の被害はあったが比較的少なかった。私は八戸の港の修復という目的を定め、これを全力で片付けた。港も約１週間で復旧し、船が入り、ガソリンなど船積みになったものが入って少しずつライフラインが復旧し始めた。その後、私は二つ目の被災地、岩手に向かうことになった。

言葉を失う

岩手県釜石市は完全に八戸市とは景色が違っていた。私も、ああいう世界はテレビでは見たことがあったが、実際に現場に入って言葉を失ってしまった。とにかく360度すべてが現場になっていて、それも、いきなり始まる。普通の街並みだったのが、交差点に入るとそこから先は全てやられている。一瞬にして被災地になる。心の準備も何もない。それが津波の特徴なのかと思った。

４月に新潟に赴任してから、いろいろな方とお会いし、震災の話をする機会があった。あるお店に普段着で行って、店主と話をしていた時のことだ。彼が、被災現地に行った友達から聞いた話として、こんなことを言った。「遺体が多すぎて、自衛隊がバケットローダーで運んでいるらしい」。腰が抜けるほどびっくりした。そこで私は身分を明らかにして、詳しい状況をお伝えした。現場は過酷を極めていたが、ご遺体を見つけたら収容は必ず一体ごと、車に乗せて遺体安置所にお運びした。自衛隊の車は大変大きな車だが、そういうトラックであっても一体だけである。見た目は効率が悪いかも知れないが、そんなことはない。お一人お一人、大切に運んだ。行政が一部機能していなかったので、我々は身元を確認するためにご遺体をきれいに拭くこともしたし、埋葬まで我々がやった。自衛隊の仕事ではないが、ここから先は法律上出来ないなど言えない。だから、現場の判断で対応した。そうせざるをえないし、そうすべきだと思ってやっていた。そういった状況にもかかわらず、バケットローダーで運んでいると言われ、大変寂しい気がした。

普段は感情を入れないようにして淡々と行方不明者の捜索をやっているのだが、ご家族の方から「私の親族が、この建物の下に確かに埋まっているんです。なんとか助けてください」と言われた。そして見つかって、普通であれば安置所にそのまま一体ずつお運びするのだが、ご家族がいるので我々もすぐにそれができなくて、しばらく横に立っていた。その時は家族とまったく同じ気持ちになって、今まで我慢していた涙が一気にあふれた。行方不明者の捜索で一番辛かったことだ。

隊員の心のケア

そんな中、行方不明者の捜索をしている隊員の心のケアは、厳しい状況であったが、我々はこれをなんとかクリアしなければならず苦労した。自衛隊の中には心理カウンセラーの専門家がいるので、４人ずつの２チームをつくった。これを東北の上と下半分に分けて、巡回カウンセリングということで、常に部隊を回りながら隊員のカウンセリングをしていた。自衛隊が国際貢献活動をしていることはご存じと思うが、3～6カ月間、海外に行って、派遣から帰って来ると、約1カ月の単位で休暇を与える。これをクールダウンと言う。つまり頭を冷やせということである。これをなんとか災害派遣でもやりたかったのだが、とにかくそんな状況ではない。大体1、2日休んだら1週間ぐらいの単位で災害派遣の現場へ行っていたから、数週間も休むことなどできない。

そこで考えたのがミニクールダウンということだった。現地では、夜は暗くて危ないので活動はせず、集結地に戻ってテントの中で静かにしているのだが、そんな時に、みんなで車座になって会話をするのである。今日あったこと、見たこと、聞いたこと、思ったことを話す。現地では悲しい話を聞く機会も多い。その話を自分だけで飲み込んでしまうと大変なので、「こんな悲しい話を聞いてしまった」ということを皆に話す。そうすると少し気持ちが楽になる。ためないことが大切だ。これをミニクールダウンと呼び、実際にやった。

応援メッセージ

さて、長い災害派遣期間で、隊員にやる気を持たせるためにどんなことをやったかというと、これは非常に難しい話だ。自衛隊ではよく「有形・無形の戦闘力」という表現をする。有形は戦車や航空機など普段装備品として持っているもの。無形戦闘力というのはそれらを扱う隊員たちの気持ちである。やる気、士気。それが無かったら装備品はただの鉄のかたまりである。今回の災害派遣に例えて言うと、普段使っている装備品は使わない。ほとんど隊員の気持ちだけでやっている。最も大事なのは隊員のやる気だ。当然、最初は皆さんに「ありがとう」と言われるのだが、だんだん時間がたつと賞味期限が切れてしまう。ヘリコプターで救出に来てくれた救難隊を見て、初めは「あ、天使が来た」と、皆さんは思ったろう。ところが、1カ月、2カ月とたってヘリコプターが飛ぶと、そうは思われない。そこで、こんなことをやった。自衛隊には、ツイッターやファクスなどで、大変な量の応援メッセージが毎日のように来ていた。それを部隊まで上級部隊が届けてくれた。それを毎日、出発前の朝礼で読ませた。「自衛隊さんありがとう」。もうそれだけで隊員は目頭が熱くなって、「よし、今日もやるぞ」と、燃えるのである。応援メッセージを読んで、気持ちを上げて、スイッチを入れて、被災現場に入っていった。何とかやる気を上げながら、6カ月間、一生懸命支援をやったということである。

谷地田茂明 新会長あいさつ

野田総理に勇気もらう

新会長に任命頂きました、ヤチダ（新潟県加茂市）の谷地田茂明でございます。さて、私は55歳でありますが、今回、新たに総理大臣になられた野田佳彦総理は54歳です。私よりも年齢が下の方が総理大臣になるというのは初めての経験でした。今回、新会長を受けるに当たりまして、「そろそろ、お前のような年代の人が会長をやってもいいんじゃないか」という声がありました。自信はまだございませんが、今回野田総理が、日本を背負って立つ姿を見まして、そろそろ自分もやらなければいけないだろうと、腑に落ちた感じがしております。今後2年間、一生懸命、先端技術研究会／新潟産業人クラブのために働いていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

来賓祝辞

新潟県副知事　森　邦雄氏

新エネ、力をあわせて

先端技術研究会／新潟産業人クラブの定時総会記念祝賀パーティー、誠におめでとうございます。本県の景気に関しましては、3月の大地震以来、いくつかの災害に見舞われましてなかなか先が見えないような状況であります。加えて、円高により輸出産業をはじめ、中小企業の皆さんにとっても大変な時期になっています。一つの県だけではなかなか難しいかもしれませんが、新潟県として精いっぱいそれらの対策に手を打っているところでございます。

今回の原発事故で、新エネルギーというものが着目されてきています。私どもも新エネルギー施策という形で、雪国型メガソーラー（大規模太陽光発電所）や、温泉を活用した地熱発電などの取り組みを進めております。それから、粟島（粟島浦村）ではスマートグリッドに関する取り組みを東北電力さんなどと協力しながらやっていきたいと考えています。しかし、行政だけではこれらの取り組みはできません。皆様方からアイデアや、しっかりとした技術に裏打ちされたお力を頂かないと、新潟県産業の新たな発展は難しいと思います。今回を契機にますます、皆様方と手を携えて、進めていければと考えております。

協賛いただいた会員各社

＜順不同＞

高分子型圧力及び振動センサー、赤外線吸収フィルター開発、製造
エルメック電子工業株式会社
新潟市北区木崎778-45
TEL(025)388-4330　FAX(025)388-4334

工業炉の設計施工、高圧水洗浄及びブラスト装置製作
アドバンエンジ株式会社
新潟市北区島見町3399-34
TEL(025)255-3300　FAX(025)255-2800

金属熱処理、クロスパイル熱交換器の設計製作
セキサーマル株式会社
燕市吉田下中野1447-2
TEL(025)692-5499　FAX(025)693-4331

給排水衛生空調設備工事、水回りリフォーム
千代田設備株式会社
新潟市中央区下所島2-17-3
TEL(025)284-1141　FAX(025)284-2816

切削工具・機械刃物・リサイクル刃物の製造・販売・再研磨
株式会社加藤研削工業
新潟市東区岡山1282
TEL(025)271-7144　FAX(025)273-9990

工業用ミシン部品、精密加工部品、医療機器
株式会社佐文工業所
新潟市江南区元町2-1-41
TEL(025)382-2171　FAX(025)382-7352

電気通信設備工事、電気工事、防災設備工事、ソフトウェア開発
双峰通信工業株式会社
新潟市東区船江町1-55-11
TEL(025)275-1211　FAX(025)275-1222

土木・建築工事、「ネプラス工法」関連部材の製造販売
高橋土建株式会社
胎内市関沢37番地1
TEL(025)443-3078　FAX(025)443-5469

米菓製造機械、搬送設備、FA 自動化設備、業務用生ゴミ処理機
大東産業株式会社
新潟市江南区亀田工業団地3-1-19
TEL(025)381-3441　FAX(025)381-3992

Manufacture of furnishing articles, machine parts and in-flight equipment.
KUBO SEISAKUSYO Co., Ltd.
工作機械向け部品・航空機内装製造
株式会社クボ製作所
http://www.kubo-co.net
【本社・本社工場】〒959-2206　新潟県阿賀野市かがやき14-1
TEL.0250-68-2729　FAX.0250-68-5243
【前山工場】TEL.0250-67-9663　FAX.0250-67-9660
【久保工場】TEL.0250-68-2799　FAX.0250-68-2688

真空機器の製作、電子ビームを用いた精密加工、高速同時５軸加工機を用いた精密加工
株式会社ヤチダ
代表取締役 谷地田茂明
〒959-1303 新潟県加茂市後須田 701 番地
TEL：0256-52-1395　FAX：0256-52-6064
URL http://www.yacida.co.jp/

独創的 新発想 小型薄層切削機
● 超小型・軽量。“打撃”ではなく、“切る”の新発想
● アスファルト・コンクリートを薄層平面切削
● 電動方式で屋内使用も可能
ヒートロック工業株式会社　東京都中央区京橋2-13-10 京橋MIDビル 本社開発事業部　TEL:03-3561-1681

創業92年の歴史と現代の最新技術の提供
地域密着でもの作り応援企業は　フチオカ
新潟・関東・東北・北海道そして関西・九州まで
研磨材、研削砥石のご用命は　フチオカ
FUCHIOKA 0258 (66) 0600まで

先端技術研究会／新潟産業人クラブ
新入会員募集！
新潟市中央区白山浦 1-614 日刊工業新聞社新潟支局内
TEL：025-233-3883　FAX：025-233-6127
URL http://www.sentan.gr.jp

THK The Mark of Linear Motion
世にない新しいものを提案し、世に新しい風を吹き込み、豊かな社会作りに貢献する。
THK新潟株式会社
阿賀野市保田字中山5836
TEL(0250)68-3482
FAX(0250)68-3486

株式会社コイデエンジニアリング
代表取締役　小　出　　茂
本　社　〒959-1112　新潟県三条市安代76
TEL:0256-45-2234　FAX:0256-45-5089
見附工場　〒954-0076　新潟県見附市新幸町9-3
TEL:0258-66-0063　FAX:0258-66-0064

YAMA LIGHT®
……LED照明のトップブランド
山勝電子工業株式会社
YAMAKATSU ELECTRONICS INDUSTRY CO., LTD.
本　社：川崎市高津区末長541-4
URL：http://www.yamakatsu.co.jp
TEL (044) 866-2411(代)
FAX (044) 877-0755
長岡情報センター：TEL (0258) 22-2141
新潟開発センター：TEL (025) 244-1185
六日町情報センター：TEL (025) 776-2131